

特定非営利活動法人 ピアソン会

第78号

2018. 2. 5

ピアソン便り

発行人：吉田 邦子（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

ピアソン会事務局
(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel: 0157-31-1215

ピアソン記念館内

AM.9:30 ~ PM.4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

昨年寄贈された、ピアソン宣教師関連の新材料の中に、イカンノさんに関する資料と彼女の寄稿文の所在情報がありました。ピアソン会では、玉置理事がその資料を元に早速企画展用資料パネルを作成し公開展示しました。引き続き今回、会報用に、イカンノさんに関する一文を整え、ここに掲載いたします。

「イカンノさんの事」

ピアソン会理事 玉置 義弘

ピアソン邸の横に建てられた日
本家屋に息子の金太郎君と住み、
ピアソン夫妻に「ideal servant (理
想的な奉公人)」と評されたアイ
ヌ婦人のイカンノさんは、ピアソ
ン邸の家事全般を任されていたよ
うです。しかし、彼女についての
記録は少なく、一番古いものは、
1910(明治43)年頃に旭川の
近文コタンで撮影された彼女の結
婚式の写真と思われます。その後、
彼女がどのような経緯で未亡人に
なり、いつ野付牛のピアソン邸に
やって来たのかは解りません。ピ
アソン夫妻が1928(昭和3)
年にアメリカへ帰国する時、イカ
ンノさんが生活に困らないように
充分な処置をし、金太郎君は札幌

の工業学校に進学させ、その後、
彼は端野町で砂利運搬業を営んで
いたと、佐藤猪之助氏が1960
年に北見ロータリークラブが発行
した小冊子「ピアソン氏の思い出」
に書いていますが、この文がイカ
ンノさん親子のピアソン氏の帰国
後を書いたすべてで、イカンノさ
んがその後も野付牛町に住み続け
たか、またはどこかへ引越したの
かについては書かれておらず不思
議に思っていました。

イカンノさんについて、今まで
解っていた事は、姓が川村であり、
名のイカンノは「刺繍が上手な女
性」の意味という事。川村カ子ト、
砂澤クラのいことである事などで
す。川村カ子ト氏は上川アイヌの
長で、鉄道測量技師として飯田線
の難工事を完成させた事で有名な
方です。退職後は旭川の川村カ子
トアイヌ記念館の館長を勤めてい
ました。砂澤クラ氏はアイヌ文化
伝承者で、子供の頃に旭川でピア
ソン夫妻が開いた日曜学校に通い、
夫妻への養女の話も出たが父が断
つたと自伝(クスクツポールシペ)
に書いています。
ピアソン夫妻の許で働いていた
イカンノさんは、当然クリスチャ



【写真右】ピアソン邸のお花畑での撮影。写真の裏書きには、In flower garden east of our house Next to Mrs. Loy is daughter of our old evangelist Mr. Yamaguchi Behind her is Ikano our ideal servant and her niece another ideal servant. YJS:12

後列
ピアソン氏の左にイカ
ンノさん。
前列、犬の後ろに息子
の金太郎くん。

ンで、日本基督教野付牛教会の教会員と思ひ込んでいましたが、彼女の記録を、現在の日本キリスト教会北見教会の会員移動記録で調べてみたところ、彼女が野付牛教会の会員たちと写った写真はありますが、教会籍に記録はありませんでした。普通、クリスチャンは転居して教会が変わった時など、どこの町のどの教会から移動したかが記録されるのですが、イカンノさんに関してはありません。

昨年の8月「田舎伝道者」の著者、故小池創造牧師の長女静さんより、ピアソン夫妻関連資料が日本キリスト教会北見教会に送られて来ました。その資料をNPO法人ピアソン会へ寄贈するに当たり、内容を調べていたら一通の手紙が目に入りました。最初は小池牧師から本を贈呈された御礼状かなと思つて読んでいたのですが驚きました。本の贈呈に対する御礼の後に「アイヌメイドのイカンノ姉について一寸お知らせ申し上げます」と書かれており、「アイヌ伝道団」の機関誌「ウタリグス（同胞たち）」に投稿されたイカンノさんの文章が書き写されています。

ました。「忙はしき婦」と題された文章は信仰に対する心構えが書かれた文章ですが、彼女の信仰の深さが判る内容です。文章の載った「ウタリグス」は1920（大正9）年に創刊号が発行され、彼女の投稿した文章は1921（大正10）年の第1巻7号で9月に発行されたものです。小池牧師へ手紙を書

いたのは、当時鶴川町在住の辺泥和朗氏で、アイヌの歌人遠星北斗、吉田菊太郎と「アイヌ一貫同志会」を結成し、民族活動を行い、後に北海道アイヌ協会の設立に関わっています。また、父辺泥五郎氏の活動を助けるために、聖公会より特使伝道師という辞令をもらつて、伝道活動に従事していた方です。

ソソ夫妻が写っており、また撮影場所が金成マツ氏の伝道所であると思われることから、イカンノさんは近文でバチエラーから洗礼を受けた聖公会の信者ではないかと思われ、長老派教会の野付牛教会に籍はなかつたと考えます。

8）年に組織した「アイヌ伝道団」の機関誌で、伝道者達の結束を固めるために発行されたものですが、他の執筆者を見ると、バチエラー師の他、バチエラー八重子（バチエラーの養女で歌人、向井山雄（八重子の弟で、アイヌ民族で最初に聖公会の司祭に叙階された）、編集者の片平富次郎は、八重子の姉の息子。他の号には金成マツが投稿しており、当時の聖公会のアイヌ伝道者の中心的人物ばかりなので、その中のイカンノさんの投稿は、非常に興味を惹かれます。また、イカンノさんが「ウタリグス」に投稿した時、彼女の住所が平取村になっていますが、彼女の投稿が掲載された1921（大正10）年には、ピアソン夫妻は6月から1年間帰米しており、その間イカンノさんは平取村に滞在していたと考えられます。また、バチエラー八重子は、アイヌ人の信徒の結びつきを強めるため「アイヌ婦人友愛会」の組織作りをしており、その年は聖公会の平取教会に滞在していました。聖公会の信徒だったイカンノさんが、彼女を訪ね長期滞在した時に書いた文章と考えていますが、今後、彼女について新たな資料が見つかり、彼女の姿がより鮮明になる日が来るかも知れません。



写真右／イカンノの結婚祝いの写真。ジョンバチエラー夫妻、ピアソン夫妻、知里幸恵、金成マツらが写っている。（この写真はピアソン氏が米国に送っていたもの）

彼の父辺泥五郎氏は、1878（明治11）年釧路の春採生まれ。19歳の時に聖公会の宣教師ジョン・バチエラーより洗礼を受け、1904（明治37）年にセントルイスで開催された万国博覧会に、少数民族文化として展示されたアイヌ文化紹介のために渡米。帰国後、バチエラーによつて函館に開校した「愛隣学校」で学び、第1期生として聖公会の伝道者となり、鶴川町のチンコタンに聖公会の教会を建てています。

バチエラーは最初に自分がアイヌコタンに入つて伝道を行い、その後アイヌの伝道者を派遣するという方法をとっています。その後の伝道所ですが、その当時の記録によると近文の伝道所は、あまり教派色は強くなく、救世軍が来るとそこは救世軍の日曜学校になり、またピアソン夫人が来ると彼女が日曜学校を開き、普段は金成マツ氏が子どもたちを教えたようです。おそらく当時のアイヌ伝道者達は援助の少ない自給伝道だったので、旭川で宣教活動していたピアソン夫妻も近文伝道所を支えていたことでしょう。近文の結婚式の写真も聖公会のバチエラー夫妻、長老派教会のピアソン夫妻、さらに遠軽から来た太鼓と管楽器を持った軍服のような制服の救世軍も写っているのは、クリスチャンのイカンノさんを祝うために集まつたと思われま

た「ウタリグス」は、バチエラー師が団長になり、1919（大正10）年に組織した「アイヌ伝道団」の機関誌で、伝道者達の結束を固めるために発行されたものですが、他の執筆者を見ると、バチエラー師の他、バチエラー八重子（バチエラーの養女で歌人、向井山雄（八重子の弟で、アイヌ民族で最初に聖公会の司祭に叙階された）、編集者の片平富次郎は、八重子の姉の息子。他の号には金成マツが投稿しており、当時の聖公会のアイヌ伝道者の中心的人物ばかりなので、その中のイカンノさんの投稿は、非常に興味を惹かれます。また、イカンノさんが「ウタリグス」に投稿した時、彼女の住所が平取村になっていますが、彼女の投稿が掲載された1921（大正10）年には、ピアソン夫妻は6月から1年間帰米しており、その間イカンノさんは平取村に滞在していたと考えられます。また、バチエラー八重子は、アイヌ人の信徒の結びつきを強めるため「アイヌ婦人友愛会」の組織作りをしており、その年は聖公会の平取教会に滞在していました。聖公会の信徒だったイカンノさんが、彼女を訪ね長期滞在した時に書いた文章と考えていますが、今後、彼女について新たな資料が見つかり、彼女の姿がより鮮明になる日が来るかも知れません。

素敵な来館者たち!

冬季間は、館内への訪問客ばかりではなく、かつてのピアソン邸の広い庭に遊びに来るお客さんがいます。当然子供たちがほとんどです。市内の保育所の園児が先生に連れられてのソリ滑りなど。寒い冬を元気に楽しんでいます。近所の子供も除雪した雪山に秘密基地を作り毎日せせと雪穴を掘っています。昔と同じ光景です。



マイナス 10 度の外で元気に雪穴づくりの女の子



「向ぼっこ」のキタキツネ

キタキツネが休息!

資料翻訳作業が再開します!

ピアソン宣教師夫妻が残した手紙やレポート、さらには各種出版物に寄稿した論文など、収集はしたまま未だに原文のままのものが数多く残っています。

その未翻訳の資料を、現在ボランティアで黙々と翻訳作業を進めている方がいます。

2009年に、ピアソンブックレット第2号「日本・北海道明治四十一年」を翻訳した北原氏その人で、昨年の暮れから翻訳を始められました。当会での翻訳事業は、あくまでも善意のボランティアで

進めていただく方針なので、依頼することも控えていたのですが、ご本人の申出により再開することができました。

次年度には正式に予算化し、重要な資料から翻訳出版をしていきたいと考えています。

次年度は、ピアソン氏の故郷エリザベス市と北見市の姉妹都市提携から50周年という記念すべき年でもありますので、翻訳事業を継続しピアソン夫妻の日本での活動内容をさらに紹介できるように願っています。ご期待ください。

スポンサー募集!

今後もピアソン便りの隔月刊発行を継続するため、協力スポンサーを募集致します。年間1万円の協力で、会報に左図スペースでの広告を毎回掲載させて頂きます。スペース×6回となりますので、スペースを2倍とした場合は年3回となります。詳細については事務局まで。

広告見本

年6回掲載で、年額10,000円です。

30 ミリ
×
50 ミリ

「ピアソン学事始め」

⑤

この「ピアソン学事始め」は、15年前に街の情報紙に書かれたものですが、少し手を加え年号なども修正し改稿として連載しています。

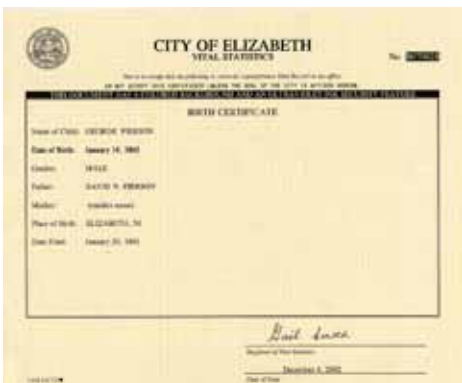
ピアソン会理事 伊藤 悟

(5) ピアソンさんが生れた頃のアメリカ

G・P・ピアソン宣教師は、今から約157年前の1861年にアメリカのニュージャーシー州のエリザベスで生まれました。この年はちょうど南北戦争が始まった年でもありましたが、この1年前の大統領選挙で、貧しい農民出身のリンカーンが大統領に当選していました。南北戦争は、それまで南部出身者が独占していた大統領の座を北部出身者に奪われたため、翌年南部11州が「アメリカ連合国」を宣言し、分離を計った事に起因するものです。

最初は南部が優位に戦争を進めていましたが、1863年に北部が「奴隷解放宣言」を出し、アメリカ全土に約三百万人以上いた黒人奴隷の解放を宣言することで、国内の支持を集め、以後北軍が優位にたちます。最終的には北軍が勝利し、1864年にリンカーンは大統領に再選されます。しかし翌年に強烈な南部主義者により射殺されてしまいます。

当時のアメリカの総人口は、約三千万人といわれていましたがこの戦いで両軍合わせて六十万人以上の死傷者と、55億ドルのお金を浪費したと記録には残っています。ピアソンさんは、そんな時代に北軍に属するニューヨークに近い町で生まれました。町の有力者や多くの親類もこの戦いに参加したと思われるすし、亡くなった親類も大勢いたようです。またリンカーンも戦争終了後にこの町に立ち寄って来ますので、子どもだったピアソンさんも歓迎パレードに参加していたかもしれません。(つづく)



写真右/ピアソン氏の出生証明書。本年はピアソン氏生誕157年、没後79年となります。

「ニュージージーランドからの便り」第11回

〜ピアノン会顧問 グラハム・ハード氏〜



大勢がオークランドから日帰り来ています。昨日は、新婚カップルもいる中国勢が、ドラマティック・シーンを背景に写真を撮っていました。

*2017・12・23

◆今朝弟が来て、今クリスマススのハムを皿に盛りつけています。毎年見栄え良くうまく仕上げられてきます。クリスマスの音楽を聴きながら……。

◆昨日は姉の家族みんなとオークランドのちよつと北にあたるクメウのワイナリー・レストランで昼食をとりました。姪夫婦が子どもエイモスとアローンを連れてウエリントンから来ています。エイモスはクリスマス・ディナー用に私の菜園でジャガイモ掘りを手伝うのを楽しみにしています。

◆帰りにムリワイ・ビーチへ寄りました。カツオドリの営巣コロニーで知られ、海を見下ろす崖の上に巣を作ります。今年は若い鳥が多く、まもなく巣立ちの準備でしょう。ムリワイはまたサーフィング・ビーチとしても有名で、サーファーたちが大勢波乗りをしていました。海外からの旅行者を含め

◆ピアノン会の皆様、北見の友人方へクリスマスと新年のご挨拶を申し上げます。

*2017・12・29

◆殊の外寒さの厳しい北見でお変わりないことを。

◆ここは暖かく、晴れた日々が続いています。ほとんどのニュージージーランド人には一年中でこの時期は夏休みとして最高です。

◆ピアノン便りとドナルド・キーンに関する新聞記事をありがとうございます。アーサー・ウエイリーをテレビ番組で見られたとは何と素晴らしい！

◆姉一家(子どもたち・孫たち)の全員がいて、とても幸せなクリスマススの季節を過ごしています。孫たちはクリスマスプレゼントに小さなカヤックを一艘もらったので、長い時間、楽しく海辺で遊んでいます。

◆菜園のジャガイモを掘りました。クリスマスのご馳走を美味しくしてくれました。

◆北見の皆様にご幸せをお祈りいたします。



◆最新のドナルド・キーンに関する記事は読んでいて楽しかったです。送ってくださる新潟のお友達に感謝をお伝えください。ドナルド・キーンが、『初め、興味を共有する仲間がごく少数で自分もどこへ導かれるのかさえ分からなかったけれど、日本文学に焦点を絞る専門職に成るように運命づけられていたと感じた』という想いを読んで興味深く思いました。私自身も似たような想いを体験してました。彼の日本文学の優れた作品集は、日本語研究を始めるよう奮起させてくれた書籍の一つで、そのことをいつも感謝しています。

【写真】ニュージージーランド、ファンガパラオアのハード氏とお姉さん一家。お姉さんも弟さんもハード氏北見滞在中に北北しました。2017年12月23日撮影。

*2018・1・16

◆収穫したジャガイモはアグリアという品種です。身は黄色っぽくメイクインのようですが、もっとホクホクです。姉が言うには、アグリアは茹でるよりもオーブンや火で焼く方が合うそうで、昨年栽培したネディーンよりも美味しいと思いました。両品種ともニュージージーランドでは人気で、スーパー

◆今この所ワンガヌイにいます。とても暑い天候で、2・3日前は多分30度Cくらいでしたが、今日は少し下がっています。

◆果樹園のプラムははまだそれほど多くありません。とても美味しく、木曜日(18日)に戻る頃にはオークランドの人たちへ分けられるほど十分になるでしょう。ダムソン(西洋スモモ)やリンゴも良さそうに見えますが、未熟です。リンゴの木の本にコドリ

ガモ(害虫) 除けをつけたら効果があったようですが、幾つかのリンゴはやられたままです。今朝、木の成長と虫除けにと下草刈りをしました。とても熱い作業でした。

◆昨日は従兄弟のステイブとお隣のハーヴェイ(ボート持ち主)が海釣りに出かけました。風になるのをずっと待っていたので、うまい具合に何匹か良い型のフエダイとホウボウを釣りました。夕食用にフエダイをもらい本当に幸せでした。バターでゆっくりフライにし、美味しく味わいました。

◆北見の友人方によるしくお伝えください。

編集後記

オホーツク海網走港にも流水が接岸し一段と寒さが厳しくなりました。本年度も残すところあと2ヶ月間となりましたが、今年度の事業は、予定外の出費(事務局使用パソコンの老朽化を最新機種に変更)などもあり、慎ましい事業内容になっております。また、会報の隔月発行での経費の増大もありました。

次年度の事業の計画も、そろそろ検討しなければならぬ時期になりましたが、現在、ピアノン宣教師レポート原文を翻訳して下さっている会員がおります。来年度事業の中心になるものでないかと期待しております。

また、エリザベス市との姉妹都市提携50周年事業もあります。

(理事兼事務局長) 伊藤 悟